



総合資料館だより

2015. 1. 1 No. 182

「祇園社雪中」



『京都十景』（京都名所之内祇園社雪中）

初詣が現在のように習慣化したのは明治時代中頃から大正時代とされています。それ以前は、その年の恵方にある寺社に参拝して幸福を祈願する恵方詣が行われていました。

「京都名所之内祇園社雪中」は「東海道五十三次」などで有名な歌川広重の作品です。雪が降りしきる中、神社に参拝する女性たちが描かれており、鳥居の扁額には「感神院」と書かれています。八坂神社は元々「祇園神社」「祇園社」「祇園感神院」などと呼ばれていましたが、明治元（1868）年の神仏分離令により現在の名称に改められました。

本作品は『京都十景』のひとつとして描かれました。広重の時代には八坂神社への参拝が、京都の冬の名所として人々に親しまれていたようです。

目次	祇園社雪中（『京都十景』より）	1
	知事年頭あいさつ	2
	歴史資料課の窓から「京の御役所、その仕事と資料 - 京都町奉行所を中心に -」	3
	文献課の窓から「南山城の正月行事 - 木津川市山城町を中心に -」	6
	最近の収集資料から（平成26年9月～11月）	8
	Library of the Year 2014 大賞受賞！	10
	行事案内、友の会事務局から、利用案内	11

平成27年知事年頭あいさつ

京都から真の地方創生の実現を

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年春、多くの皆さまからご信託を賜り、府政のかじ取りを引き続き担わせていただくことになりました。皆さまからいただいた期待を胸に、全力を尽くして京都府政を推進してまいりますので、府政に対するお力添えをよろしくお願ひ申し上げます。

社会は大きな転換期に

昨年は、未来に向かった課題が明確になった年でした。「平成26年8月豪雨」をはじめ、気候変動の影響により京都は3年連続の甚大な災害に見舞われました。改めて被害を受けられた皆さまにお見舞いを申し上げます。府は、一日も早い復旧と将来にわたっての安全確保対策に、国・市町村と連携し全力を挙げて取り組んでいるところでありますが、「経験したことの無い」や「史上最大」という表現が毎回のよう繰り返される現状を見ると、もう一段階上の根本的な防災対策が大きな課題になっていると思います。

また昨年、私が会長を務める全国知事会で「少子化非常事態宣言」の決議を行いました。地方消滅とまで言われる少子化の問題も高齢化の進展と併せて一刻の猶予もならない状況にあり、婚活から出産、子育て、雇用問題まで、幅広い分野で抜本的な対策を講じなければなりません。

さらに、東京一極集中の是正や中小企業・農林水産業の振興、環境・エネルギー問題など、今、日本社会は大きな転換期に来ており、これまでの対応では解決できない課題を多く抱えています。従来の制度や政策を大きく超えた発想やスピード感をもった新たな施策により「新しい安心」を創出していかなければなりません。

大交流時代の実現へ

ただ、一方で京都の観光客数は大幅な回復を見せ、植物園は近年最高の入園者数を記録し、「海の京都」観光圏に認定された府北部5市2町で開催された「海フェスタ京都」では140万人を超える方々にご来場いただきました。

京都府立医科大学、京都府立大学及び京都工芸繊維大学の3大学による全国初の教養教育共同化施設が完成し、豊かな人材育成・交流拠点として活動を始め、学研地域にも企業の立地が相次ぎ、「けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）」（旧「私のしごと館」）も動き始めました。

さらに今年は、悲願であった京都縦貫自動車道が全線開通し、高速道路の整備が大きな節目を迎えます。また、京都舞鶴港の整備やJR奈良線の複線化事業など、京都がこれまで取り組んできた基盤整備が大きな成果を上げつつあります。これらの整備された交流基盤の上に、「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」や15の「みやこ構想」の花を咲かせ、文化・スポーツ、学術・研究、産業などあらゆる分野で「新たな交流」を進める「世界の交流首都・京都」が姿を現しつつあります。

とりわけ今年は、本阿弥光悦が鷹峯の地で光悦村を開いてから400年の節目の年。オール京都の力を結集した「琳派400年記念祭」で、着物や工芸品など伝統産業の復権を目指すとともに、「PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭2015」と併せて京都の文化新時代を築き上げていきます。

真の地方創生を目指して

これまでの安心を超える「新たな安心」の創出、北から南まで京都の資源と魅力を活かした「新たな交流」により、府民の皆さまと力を合わせて京都の未来を切り開いていきたいと思っています。「少子化対策」、「東京一極集中の是正」、「地域活性化」という地方創生を進めるためにも、京都から安心と交流をつくり出し、お互いが支え合う地域社会を築いていく。京都には、それを可能にする力があります。今こそ、私たちの持つ「京都力」を結集し、真の「地方創生」をつくり上げていきましょう。

この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

京の御役所、その仕事と資料 —京都町奉行所を中心に—

江戸時代の京は産業・文化都市として日本の中で重要な位置を占めてきましたが、一方で幕府の西国支配のための重要な政治都市でもあり、二条城周辺には、所司代屋敷（役所）・京都町奉行所等の幕府の諸役所が立ち並んで官庁街を形成していました。そこでは5頁の一覧表のような役職に任命された役人達の多くが勤めていました。



「山城国水系図」(部分)

役人達には、江戸から京都へ数年限りで派遣される役人（京都所司代・京都町奉行・禁裏附・二条在番・二条御蔵奉行等）と、地元京都に在住して代々世襲する役人（京都代官・淀過書船支配・賀茂川堤奉行・京都大工頭・二条御殿預等）と二つのタイプがありました。もっとも幕府から派遣されるエリート役人達（大名や旗本）といえども、公家や寺社が混在し独特の雰囲気を持った京都で仕事をスムーズに進めるには、自らが連れてくる家臣だけではなく、京都在住の与力・同心（京都地役人）の知識や力に頼らざるをえない部分が多かったと思われます。

地元の役人の役割が大きかったことの証の一つとして「京都武鑑」の存在があります。これは江戸幕府の京都関係役人の人名録で、18世紀中

頃から幕末の慶応3年（1867）まで途切れることなく刊行されました。基本情報（役職・名前・禄高・屋敷地・家臣等）とともに、配下の与力等の名前が記されています。特に京都町奉行所の与力・同心については彼らの役宅図（住宅図）も記されていました。一枚両面刷りの携帯に便利な大きさで、これを持って与力等の家を訪ねていた人々もいたかもしれません⁽¹⁾。

京都町奉行所は、数ある役所の中で、当時の人々の生活に一番深く関わっていた役所といえるでしょう。寛文8年（1668）に京都所司代の権限の一部が委譲されて設置されたもので、老中管轄の遠国奉行の一つですが、実質的には京都所司代の指示を受けていたようです。京都市中の取締や裁判等の民政全般のほか、山城国中村々への触の伝達や犯罪取締、近畿の国々の寺社支配や訴訟の裁許など任務は多岐に渡りました。二条城の南東と西に、東西2つの奉行所があり、奉行職には上級旗本が東西1名ずつ任命されました。それぞれに京都在住の与力20人・同心50人が付き、月番（月ごとに主副を交代）で勤務しました。仕事の分担は、時期による変更はありますが、概ね次の通りです。

公事方^{くしかた} = 裁判訴訟業務。

勘定方 = 普請の入札。奉行所内の経理。

目付方新家方 = 目付方は犯罪人の探索等。新家方は家の新築や土地開発の申請処理。両役は兼帯。

証文方 = 制札に関する事務。各証文の発行。

欠所方^{けっしょかた} = 没収家屋や土地の入札。枡の検閲。

番方 = 役方（文官）に対する武官のこと。番所の受付、防犯・防火の市中巡回、祭礼の警固等。

川方 = 河川での興行の許可や中小河川の管理・修復。兼務。

敷方^{やぶかた}⁽²⁾ = 御土居敷・洛中洛外敷の管理に関すること。兼務。

さて、江戸幕府の諸役所は、慶応3年12月9日

の王政復古の大号令により廃止されました。京都府はその内の京都町奉行所の仕事を主として引き継ぎますが、あわただしい政権交代の騒乱と混乱の中、正式な事務・文書引継は行われなかったようです。

ただ、京都府庁内では古文書・古図類を当館に移管するまで所蔵していました⁽³⁾。その多くは明治35～38年に湯本文彦⁽⁴⁾を中心に行われた府庁内の書庫整理作業で発見された資料です。当時、明治維新後わずか30数年しか経っていませんでしたが、ほとんどの資料が反古同然に散乱し、その伝来はよくわからない状態でした。その中に京都所司代役所・京都町奉行所・京都大工頭中井役所ほか幾つかの役所の資料が混在していました。その時の整理報告書や資料に付された付箋等により、次のような経過で京都府庁に収蔵されることになったと推測されます。

- ①京都府庁が明治4～18年に二条城内の一角に置かれており、そこから現在地に移転する際に城に残っていたものが偶然運び込まれた。
- ②京都大工頭中井家より、建築・土木行政業務を担当する京都府に関連資料が提出された。
- ③町絵図など仕事をする上で緊急に必要なものを担当者が引き継いだ。

「旧幕府関係資料」「伝奏口上書留」「中井家文書」「京都関係版本図」等がこれにあたりますが、その量は多くありません。

京都町奉行所に関連する資料として、奉行所と町のパイプ役であった町代を務めていた古久保家の文書があります。町代は奉行所の公事番所に交替で勤務しており、町代の勤番日誌は、日々の奉行所の仕事内容に関わる貴重な資料となっています。

また、「京都町奉行所御番方与力覚帳」「仲ヶ間月番帳抜書」⁽⁵⁾等、与力が仕事の手控えとして作成したと思われる資料があります。いずれも単独の資料ですが、現場の仕事や状況を具体的に記した興味深いものです。このような手控えの性格を持った資料は、役職を勤めた家（大名・旗本）や与力・同心等の家にまだ保管されている可能性もあり、今後の発見が期待されるようです。

以上、京の御役所の仕事と資料の概略について京都町奉行所を中心に紹介しました。他の役所

については5頁の一覧を参照ください⁽⁶⁾。いずれの役所も資料が系統的に保存されておらず、その全体像を明らかにすることはなかなか困難です。しかし「京都御役所向大概覚書」⁽⁷⁾「京都町触集成」⁽⁸⁾「翁草」⁽⁹⁾等の翻刻史料集と併せて利用することにより、その姿は少しずつ明らかになるのではないかと期待しています。

(歴史資料課 辻 真澄)

- (1)「仲ヶ間月番帳抜書」寛政11年(1799)9月に町方のものを自宅に立ち入らせない沙汰があったことが記されている。
- (2)「藪方」は享保10年(1725)まで京都所司代にあった。町からの竹刈人足費用の徴収、御土居植栽の竹藪の伐採等が主な仕事だが、御土居への立制限等の実質的な管理は寛文9(1669)～寛政3年(1791)までは、角倉与一家が担当した。
- (3)これらに古典籍・地図・写真等を含めた資料群が昭和38年の当館開館直後に移管された。「旧一号書庫資料」と総称したが、資料の性格により文献資料・行政文書・古文書に選別分類し、各資料担当ごとに整理・公開している。
古文書としては、本文に説明した伝来の資料のほかに、明治新政府の制度改革(地券発給・秩禄処分・府県合併等)にあたって証拠書類や参考書類として提出させたもの、明治初期の歴史編纂事業等で収集したものがあつた。「京都地券掛旧蔵文書」「城郭図」「丹波丹後両国検地帳」「神社関係図」「内裏・陵墓関係資料」「国絵図」「絵図資料」等がそれにあたると考えられる。
- (4)湯本文彦は天保14年(1843)生まれ。鳥取県藩士。明治21年に京都府職員となり大正4年に退職するまで「平安通史」を始め多くの歴史編纂事業に携わる。資料への造詣が深く、「旧一号書庫資料」の幾つかに彼のメモ書きが付されている。
- (5)「京都町奉行所御番方与力覚帳」は資料館紀要37号、「仲ヶ間月番帳抜書」は同42号で翻刻紹介している。
- (6)資料館紀要31号「近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書一覧-京都編-」で、詳細な役人情報と、他の資料保存機関所蔵資料も含めた詳しい関連資料情報を紹介しているので是非参照してほしい。
- (7)正徳・享保期の京都町奉行の勤方の手引書。
- (8)京都の町に京都町奉行所より出された触を収集し編年翻刻したもの。
- (9)元京都町奉行所与力の^{かんざわとこう}神沢杜口(貞幹)著の随筆集。江戸時代中期までの情報が記される。

江戸幕府京都関係主要役人一覧

役職名	成立等	職務概要等	関連館蔵・寄託資料
京都所司代	慶長8年から。 將軍直屬。大名が就任。	朝廷・公家の交渉・監視、西国大名の監視、京都及び周辺諸国の司法・民政を担当した重職。寛文年間京都町奉行所の設置に伴い京都市中の司法・民政については委譲された。江戸幕府職制のなかでは老中に次ぐ重職で、万石クラスの譜代大名が任命され、老中への昇進ポスト。二条城の北にある所司代屋敷で政務を執った。	旧幕府関係資料(館古043) 伝奏口上留(館古060) 石田家文書(館古078)
二条城御門番頭	2人。 京都所司代に属する。旗本が就任。	二条城諸門の警備。	
二条御鉄砲奉行	2人。 京都所司代に属する。旗本が就任。	文久3年二条御武具奉行と唱替。	
二条御殿預	所司代に属する。三輪家が世襲。	二条御殿番。二条城の御殿を管理する役。雑用を行うのは坊主。	
二条御蔵奉行	寛永2年から。 2～4人。勘定奉行支配。旗本が就任。	二条城の内外にあった米蔵とそこに納められていた蔵米の管理。蔵米は各地の代官所から集められた年貢米で、幕府役人へ給料として支給されたり、財政上の必要に応じて入札して売却された。	仮御役中日記(館古464)
禁裏附(禁裏院中御役人)	寛永20年から。 2人。格式が高い。老中支配だが実質的には所司代の指揮を仰ぐ。旗本が就任。	禁中に入出するものの監視。朝廷の経費についてを掌る。上皇がいるときは別に仙洞附2名が置かれる。	
二条在番	寛永2年から。 東西2組。大番頭1人、組頭4人、大番衆50人。老中支配だが京都所司代とは密接な関係。	二条城警備のための職務。江戸の旗本大番12組より毎年2組ずつが交代で派遣。大番は旗本で組織された江戸幕府の軍事組織。交代時期は4月。寛永2年に二条城代と共に置かれるが、元禄12年に二条城代が廃止され主な職務を引き継ぐ。文久2年より二条定番が替わって置かれる。	二条二之丸御番所御道具申送帳(館古503)
京都町奉行	寛文8年から。 老中支配の遠国奉行の一だが、京都所司代より指示を受ける。上級旗本が就任。 南東と西にある東西2つの奉行所が月番勤務。	所司代の権限の一部を引き継いで置かれた。京都市中の取締や裁判など民政全般、山城国村々への触の伝達や犯罪取締等のほか、山城・大和・河内・和泉・摂津・近江・丹波・播磨の国の寺社支配、公事訴訟の裁許など多岐に渡る。享保7年に支配地を二分し、摂津・河内・和泉・播磨を大坂町奉行へ、京都町奉行の支配地は山城・大和・近江・丹波と縮小。上方代官への影響力も後退する。	古久保家文書(館古033) 京都関係本図(館古035) 旧幕府関係資料(館古043) 京都町奉行所御番方与力覚帳(館古421) 仲ヶ間月番帳抜書(館古436) 京都町奉行東御役所絵図(館古550)
京都代官(禁裏御所方并山城大川筋御普請御用兼帯代官)	寛文4年から(寛永11年の代官奉行が出発)。 延宝年間以後は小堀家が世襲(享保4～14年玉虫茂嘉が代行)。京都所司代支配(年貢収納は勘定奉行支配)。京都町奉行とは補完的な関係。	山城・河内・摂津・丹波などの幕府領や禁裏御所の年貢徴収・支配、禁裏の支出の管理、御所の普請、二条城の普請、山城国大川筋の管理等に当たった。代官として規模も大きく小堀役所と呼ばれることもあった。	大池表鹿島一件(館古499)
淀川書船支配兼帯代官	慶長3年に木村宗右衛門と河村与三右衛門が豊臣秀吉に朱印を受けたことから始まる。 元和元年に河村氏から角倉氏(角倉倉)に代わり以後世襲。勘定奉行支配。	淀川を上下する商船の税金を徴収する役。なお角倉与一家は過書船と併せて高瀬船支配もまかされた。また寛文9年より寛政3年頃まで御土居敷方支配も兼ねた。	
賀茂川筋堤奉行	元禄の頃から。 角倉平次(嵯峨角倉)に任せ以後世襲。	賀茂川筋の堤の管理・普請をおこなった。なお、大堰川桂川筋の高瀬舟は嵯峨角倉氏の支配であった。	丹波国世木ヨリ山城国嵯峨マデ 大井川筋絵図(館古087) 加茂川図(貴279)
京都大工頭	慶長6年から。 御作事奉行の支配。中井家の世襲。	畿内及び近江の大工・杣(そま)・木挽(こびき)を統轄。建物の新築修繕をはじめ、また土地・屋敷の測量と作図、家普請の許可等、京都における建築・土木関係業務を担当。江戸時代の初めは大工の棟梁として伏見城・二条城・知恩院・禁裏御所等の主要な建築に関わるが、寛文年間以降は新築工事が一段落し、修復工事のための破損箇所の見分、指図(設計図)や仕様書や見積書の作成等の仕事を中心。	中井家文書(館古023)
伏見町奉行	寛文6年から。元禄9～11年、文化5～7年中絶、京都町奉行支配となる。 老中支配の遠国奉行だが京都所司代との関わりも深い。多くは大名が就任。	伏見町・直轄領の支配、西国大名等の往還の監視、宇治・伏見・木津川の船舶の取締など。	江戸表京都所司代当地御奉行より被仰出書所留帳写(館古437)
京都火消役	譜代4藩＝淀藩・膳所藩・郡山藩・亀山藩が交替で勤務。高槻・篠山藩が代行することもあった。 御所・二条城周辺の消防に重点が置かれているもので、町方の消防は町奉行の指揮によった。	元禄3年に京都火消番が設けられ、丹波園部藩や柏原藩等、外様(とざま)の小藩が任免された。火事の多い9月から3月までの半年間、家臣約200～300名を引きつれ、御所近くの火消小屋に詰めていたが、宝永3年に一旦廃止。その直後宝永5年に京都大火がおこり、翌6年、3月・9月交替で半年ずつ勤務する京都常火消が置かれる。京都火消と同じく外様の小藩が命じられ、鴨川河畔の土手町に火消小屋に詰めて主に町方の火消しを担当。同じ時期、御所方の火消に譜代4藩に禁裏御所方火消が命じられ、2藩ずつ半年交替、それぞれの京屋敷に詰めて担当。享保7年に再び京都常火消は廃止され、御所方火消を命ぜられていた譜代4藩に洛中の火消し担当することが申し渡されて京都火消役となった。	[亀山藩の資料] 及川家文書(館古164) 松島家文書(館古170) 松平家資料(寄古020) [淀藩の資料] 田辺家文書(館古530) 稲葉神社所蔵文書(寄古016)

* 関連館蔵資料については総合資料館のホームページ掲載の文書解題で紹介していますので参照ください。

南山城の正月行事 ー木津川市山城町を中心にー

私の実家のある山城町（現在の木津川市山城町）は、京都府南部の木津川右岸にある地域です。特に町の北部は、田園地帯が広がり、今なお古くからの伝統行事が行われている地域でもあります。新年を迎えた今号では、正月行事を中心に、その様子を紹介したいと思います。

正月を迎えるにあたり思い浮かぶのは、大掃除、注連縄や門松などの飾り付け、餅つきといった年末の準備でしょう。昔は余裕を持って早くから始められていたこの準備も、最近は押し詰まった28日頃から慌ただしく進めるようになってしまっています。我が家では、仕事が29日から休みになることが多いので、この日から準備を始めることが多くなっています。

南山城の餅つきは、一般的に28日か30日にされることが多いようです。それは、29日の餅は「苦(九)餅」になるといって縁起をかつぐからです。（一部に、29日は「ふく(二九)餅」といってこの日に餅つきをする家もあるそうです。縁起のかつき方も様々といったところでしょうか。）つきあがった餅から鏡餅と「月の餅」という小さい丸餅を12個（閏年になる年は、13個）作り、並べて床の間に供えます。

我が家では、餅は30日につくことが多いので、29日は注連縄に使うホナガ（ウラジロ）や松飾り用の松、神棚用の榊などを採りに持山に入ります。昔は若松を根ごと引き抜いてきたのですが、森林保護の立場から自粛を求められ、松に代わって市町村などから配られる門松を紙に印刷したもの（※1）を門口に張るようになってしまいました。寂しいかぎりです。城陽市の妻の実家では、入り口に山砂の山を一箇所盛り、そこに松竹梅やホナガで作った門松を立てています。

花採り（ホナガ・松など）がすんだら、注連縄用の藁（その年に収穫した餅米の稲藁）を藁うちして注連縄がなえるように準備をしておきます。この注連縄は、逆ないといって通常の縄をなうの

とは逆に、ヒダリナイで作ります。（右利きの者の利き手とは逆となるので、ないにくいといったらありません。）注連縄は、七筋五筋三筋と藁を垂らした細縄にホナガとユズリハをつけただけの、質素なものです。



注連縄

玄関だけでなく、すべての出入り口・床の間・仏壇・神棚・各部屋の窓・井戸・便所、さらには農機具や自家用車のものまで、玄関や床の間につける縄状のものと井戸や農機具等につけるワジメを合わせて数十個作っていました。今でこそ主な玄関や神棚などに絞っていますが、腰が痛くなる作業です。



砂撒き

（『祈りとくらし』展示図録4 京都府立山城郷土資料館編刊1984年より転載）

注連縄を作り終えると、次はスナマキ用の砂採りです。この砂はキヨメズナとなる砂で、木津川から採ってきます。スナマキは、大晦日の夕方近く飾り付けを終えて、家のまわりを掃き清めた後の最後の準備です。我が家では、カド（家の前庭）には円を描くように、イリミチ（家に通じる道）には波状に撒きま

した。撒いた砂は決して踏まないように、後ずさりしながら撒いたものです。このスナマキも、道路や敷地がアスファルトやコンクリートで舗装されてきた最近では、「滑って危ないから」と撒く範囲も狭くなってきています。

元日の朝は、家族で雑煮を祝います。この雑煮は男が作る（大晦日のうちに女性が下ごしらえしてくれたものを炊くだけなのですが）になっていて、おくどさんがあった時代は豆木を必ず焚きつけに使いました。まず、梅干しを入れたこぶ茶を飲み全員で正月を祝ってから、雑煮をいただきます。初詣とは別に、氏神の神社と菩提寺には必ず家長が年始の挨拶にお参りします。私が子どものころは、元日は風呂にも入らず掃除もせずに、静かに「寝正月」をすることが多かったように思います。

楽しく過ごした三が日も過ぎるとだんだん正月気分も薄らいでいきます。正月行事の最後の楽しみは、1月15日に行われていた「とんど」でした。近年は、成人の日が15日ではなくなったので、近くの日曜日を選んで「とんど」を行っています。とんどの前夜（昔は14日、今はとんど前日の土曜日）は「日待（ひまち）」です。扇子を持ってその年の当屋（とうや）の家を集まり、「天照皇大神」の掛軸を拝みます。区からの連絡や1年の会費等の徴収をします。その後、昔は当屋で用意された食事で会食をして夜を明かしたようですが、今は近くの料理屋へ行き、時間も短く済ませています。

さて、15日の朝です。朝、小豆粥を食べた後、切り出しておいた笹付きの青竹・稲藁1束・正月飾りを担いでとんど場に行きます。まず、竹の笹付きの先の部分と竹だけの部分とに2分します。中に正月飾りを入れ、前者を円錐状になるように組み上げ周囲を稲藁で囲みます。この時、便所の正月飾りだけは中に入れず、別に小さなとんどで燃やします。

日待の当屋が、その年の恵方からとんどに火をつけます。この火で習字の紙を燃やして高く舞い上がると「字が上手になる」と言われました。火が落ち着くと、残しておいた青竹の根元側半分を火であぶります。熱が回ったところを見計らっ

て、地面にたたきつけます。ボン！という大きな音が出れば「男の子や！」とその年に生まれる子どもを占いました。竹も重く、少々危険なので、子どもにはなかなかやらせてもらえませんでした。近所のおじさんなどに、「これを鳴らしてみ」と一度たたきつけた残りのあぶった竹をもらえたりしたら、飛び上がらんばかりに喜んだものでした。

おき火ができると、「月の餅」を焼きます。この餅を食べると、風邪をひかないと言われたものです。おき火を集めたり、餅をひっくり返したりするのに、竹の残りを小割にして使います。この竹はあとで持って帰り、台所のすみに立てかけておけば魔除けのまじないになるとも言われました。

簡素化されたり、行政の指導などの事情で今では行われなくなった行事・風習など、時代の移り変わりによって「消えて行くものを少しでも記憶に残すことができれば」との思いで長々と書き綴りました。南山城地域や山城町をはじめとする市町村の正月行事については、当館で所蔵している下記の参考文献に詳しく記載されていますのでご参照ください。

（文献課 古瀬 誠三）

〈参考文献〉

『山城町史 本文編』（山城町編刊 1987年）
『ふるさと椿井の歴史』（京都府山城町椿井区編刊 1994年）

『祈りとくらし』展示図録4（京都府立山城郷土資料館編刊 1984年）

『城陽市民俗調査報告書』第2集（城陽市歴史民俗資料館編刊 2000年）

『城陽市民俗調査報告書』第3集（城陽市歴史民俗資料館編刊 2006年）

『宇治市史 3』（林屋辰三郎ほか編 宇治市役所 1976年）

『京文化と生活技術』（印南敏秀著 慶文社刊 2007年）

（※1）『[[門松用ステッカー]』（大山崎町編刊 [2006年]）



最近の収集資料から（平成26年9月～11月）



◆図書資料

〈京都〉

鹿鳴 仏教クラブ50周年記念誌 「仏教クラブ五十周年記念誌」編集委員会[編] 仏教クラブ 2014 58p 寄贈

京キリシタンの伝承を歩く 山崎泰正著 ふたば書房 2014 287p 寄贈

伏見の歴史アラカルト 「鳥羽伏見の戦い」戦史全貌 三木敏正著 海文舎印刷 2014 177p 寄贈

にしなか防災マップ・電話帳 西中筋商工振興会[編]刊 アンドウェブ株式会社制作 2014 96p 寄贈

福知山の自然遺産 伝えたいふるさとの自然 福知山市天然記念物等総合調査実行委員会作成 福知山市教育委員会編刊 2014 187p 寄贈

新聞記事で見る50年の活動記録 鴨川を美しくする会[編]刊 2014 1冊 寄贈

京都環境保全公社四十年史 京都環境保全公社社史編纂委員会編 京都環境保全公社 2014 118p

西山自然保護ネットワーク12年の歩み 小塩山のカタクリ、ギフチョウよいつまでも 西山自然保護ネットワーク[編]刊 西山自然保護ネットワーク 2013 32p 寄贈

嵯峨製材協同組合50周年記念誌 嵯峨製材協同組合[編]刊 2014 63p 寄贈

50 years of galerie 16 1962-2012 伊藤治美・坂上しのぶ編 ギャラリー16 2014 471p 寄贈

時代劇文化の発信地・京都 大石学・時代考証学会編 サンライズ出版 2014 270p 寄贈

塔事典 塔短歌会六〇周年記念 塔短歌会編刊 2014 8,297,20p 寄贈

〈人文〉

図書館年鑑 2014 日本図書館協会編刊 2014 794p

冷泉家時雨亭叢書 別巻3 冷泉家時雨亭文庫編 朝日新聞社 2014 742p 内容:別巻3 翻刻明月記2 [藤原定家著] 自承元元年至嘉禄二年

日本史を学ぶための〈古代の暦〉入門 細井浩志著 吉川弘文館 2014 9,252p

近代遺跡調査報告書 政治〈官公庁等〉,軽工業第1分冊 文化庁文化財部記念物課[編]刊 2014 2冊 内容:軽工業第1分冊 紡績・製糸・その他繊維工業・食品 寄贈

図表で見る医療保障 平成26年度版 健康保険組合連合会編 ぎょうせい 2014 12,257p

地域経済総覧 2015 東洋経済新報社 2014 847p (Data Bank SERIES 2) 2015 『週刊東洋経済』臨時増刊

山崎闇斎 天人唯一の妙、神明不思議の道 澤井啓一著 ミネルヴァ書房 2014 18,396,4p (ミネルヴァ日本評伝選)

石山寺資料叢書 1～3 石山寺文化財総合調査団編 法蔵館 1996～2010 寄贈

中世荘園の環境・構造と地域社会 備中国新見荘をひらく 海老澤衷・高橋敏子編 勉誠出版 2014 12,367p

大江戸と洛中 アジアのなかの都市景観 Edo and Kyoto: the townscape in Asia 東京都江戸東京博物館編刊 2014 237p 寄贈

小堀遠江守正一発給文書の研究 藤田恒春著 東京堂出版 2012 30,1049p

第一回普選と選挙ポスター 昭和初頭の選挙運動に関する研究 玉井清著 慶應義塾大学法学研究会 2013 11,374p 図版32p (慶應義塾大学法学研究会叢書 85)

東アジア海域に漕ぎだす 全6巻 小島毅監修
東京大学出版会 2013~2014 内容：1 海から見た歴史 2 文化都市寧波 3 くらしがつなく寧波と日本 4 東アジアのなかの五山文化 5 訓読から見なおす東アジア 6 海がはぐくむ日本文化

近代古墳保存行政の研究 尾谷雅比古著 思文閣出版 2014 10338,14p

近江の古像 高梨純次著 思文閣出版 2014 4,399,17p

侍達ノ居ル処。 野口哲哉ノ作品集 野口哲哉著 青幻舎 2014 151p 寄贈

ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 印象派を魅了した日本の美 世田谷美術館ほか編集 NHK 2014 246p 寄贈

バルテュス展 バルテュス[画] ドミニク・ラドリツァーニ・河本真理監修 東京都美術館[ほか]編集 NHK 2014 237p

明治の刺繍絵画名品集 清水三年坂美術館コレクション 村田理如[編]著 松原史解説 淡交社 2014 103p

デザイナー芹沢銈介の世界展 生誕120年記念 朝日新聞社企画事業本部文化事業部編 朝日新聞社 2014 173p 寄贈

中世後期の香文化 香道の黎明 本間洋子著 思文閣出版 2014 9,404,8p

〈官庁〉

京都府水防計画 平成26年度 京都府編刊 [2014] 403p

維持管理年報 桂川右岸流域下水道・木津川流域下水道・宮津湾流域下水道・桂川中流流域下水道・木津川上流流域下水道 平成24年度 京都府流域下水道事務所編刊 [2014] 316p

ベンチマークレポート 「明日の京都」実施状況報告書 京都府編刊 2014 294p

京(みやこ)・地域福祉推進指針 2014 京都市保健福祉局生活福祉部地域福祉課[編]刊 2014 56p

久御山町洪水ハザードマップ 久御山町[編]刊 [2014] 15p 寄贈

男山地域再生基本計画 八幡市[編]刊 2014 99,24p 寄贈

舞鶴市市制施行70周年記念誌 このタカラモノを未来へ 舞鶴市企画管理部企画室広報広聴課編 舞鶴市 2014 97p 寄贈

医療白書 2014-2015年版 日本医療企画編刊 2014 229p

交通安全白書 平成26年版 内閣府編 勝美印刷 2014 186p

エネルギー白書 2014 経済産業省編 ウィザップ 2014 311p

高齢社会統計要覧 2014 高齢・渉外・求職者雇用支援機構編刊 2014 292p 寄贈

国立社会保障・人口問題研究所年報 平成26年度版 国立社会保障・人口問題研究所編刊 2014 127p 寄贈

地域保健・健康増進事業報告 平成24年度 厚生労働省題字官房統計情報部編 厚生労働統計協会 2014 563p

■文書資料(新しく公開する資料)

志賀郷自治会旧蔵文書 綾部市志賀郷地域の村々の共有山であった奥山に関する山論訴訟一件の文書。元文6年(1741)~天保4年(1833)。17点。当事者の一人である志賀郷中村の庄屋常右衛門が記した文政8年(1825)から天保4年(1833)までの7年半の記録「山論京行心覚」12冊、天保4年「済状写」ほか。この訴訟は関係する村々の領主が山家藩・柏原藩・旗本谷家と複数にわたり、京都町奉行所に裁定を仰いだ事例である。寄贈。



Library of the Year 2014 大賞受賞!

平成26年11月7日（金）、横浜市のパシフィコ横浜で、Library of the Year 2014の大賞（最優秀賞）を決める最終選考会が行われ、投票の結果、総合資料館が大賞に選ばれました。



▲推薦者阿児雄之先生による
プレゼンテーション



▲受賞後、阿児先生（向かって
右側）と高石館長

	獲得票数
京都府立総合資料館	3
福井県鯖江市図書館 「文化の館」	2
海士町中央図書館	1
NPO法人情報ステーション「民間図書館」	1

▲投票結果7票の内訳

Library of the Year は、平成18年からNPO法人知的資源イニシアティブにより始められた賞で、公共図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行っている図書館等の機関、団体、活動を表彰する賞です。この度、総合資料館は平成26年3月～4月に公開した「東寺百合文書WEB」において、世界中の誰もが自由に東寺百合文書を利用できるようにした提供姿勢が評価され、大賞を受賞しました。

今回の大賞受賞を受け、総合資料館では「Library of the Year 2014大賞受賞報告会」を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

Library of the Year 2014大賞受賞報告会

「世界に届け！百合文書 ～なんで資料館が「すごい」と言われたの？～」（仮）

○日時：平成27年2月1日（日） 午後2時～4時

○場所：総合資料館2階会議室（定員80名、事前申込制）

○内容：（1）Library of the Year 2014審査委員長、大串夏身氏（昭和女子大学特任教授）による講演

（2）総合資料館の推薦者、阿児雄之氏（東京工業大学博物館特任講師）による講演

（3）「東寺百合文書WEB」についての説明（当館職員）

○申込方法：総合資料館HPの専用フォーム、またはFAX（075-791-9466）でお申し込みください。

「お地蔵さまサミット」のお知らせ

総合資料館では「京都の『地蔵』信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業」実行委員会の事務局として、平成25年度より花園大学などと共同でお地蔵さまの調査を進めてきました。調査成果のおひろめと、お地蔵さまに関わる人の交流の場として、サミットを開催します。

◇日時：平成27年2月22日（日）

◇場所：キャンパスプラザ京都 2階ホール・第2講義室

（〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路 939）

◇参加：無料・事前申込み不要

詳細はホームページ、またはメールマガジンでお知らせします。（庶務課：075-723-4831）

平成 26 年度「歴史資料解読講座」を開催します！

京都府立総合資料館では、古文書の読み方を中心に、古文書の基礎について初心者の方を対象に行っている「古文書入門教室」とともに、平成 24 年度から古文書や歴史資料を深く読んで歴史を読み解くことを目的に「歴史資料解読講座」を実施しています。

今年度も京都府立大学を会場にして下記のとおり開催いたします。これまでは古文書を中心に講義を行ってきましたが、今回は写真資料にも注目し、そこに描かれた歴史をひとつひとつ読み解いていきます。ふるってご応募ください。

	月 日	タイトル	講 師
1	平成 27 年 2 月 18 日(水)	「御用状にみる幕末期の地震 —一人・もの・情報—」	島津 良子氏 (奈良女子大学非常勤講師)
2	2 月 19 日(木)	「古文書からみえる陰陽師 —近世土御門家支配の様相—」	山本 琢 (総合資料館職員)
3	2 月 20 日(金)	「子爵石井行昌の写真趣味 —石井行昌撮影写真資料を読み解く—」	大塚 活美 (総合資料館職員)

【時 間】 午後 2 時～ 4 時

【会 場】 京都府立大学 合同講義室棟 3 階 第 3 講義室

【受 講 料】 無料 (当日レジュメを配付)

【定 員】 200 名

【お申込み受付期間】 平成 27 年 1 月 13 日(火) ～ 26 日(月) [必着]

【お申込み方法】

往復はがきに①住所、②氏名 (ふりがな)、③電話番号をご記入の上、申込み受付期間中 [必着] に下記の宛先までご応募ください。

※往復はがき以外でのお申込み及び期間経過後のものは受け付けておりません。

※申込者多数の場合は、抽選により受講者を決定いたします。お申込みの方全員に、はがきの返信で受講の可否をお知らせいたします。

※今回お寄せいただいた個人情報本講座の運営・管理以外の目的には使用いたしません。

【お申込み先・お問合せ先】 _____

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1-4

京都府立総合資料館 歴史資料課「歴史資料解読講座」係 TEL 075-723-4834

※会場には一般向け駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

(特別ご事情のある方は、あらかじめご連絡ください)

- ・この「歴史資料解読講座」については、当館のホームページ・メールマガジン等でも順次ご案内いたします。
- ・また、地域に残る古文書などの資料の解読、整理取り扱いなどの講習のご要望があれば、職員が出張して行いますので、ご希望の方はお問合せください。

文献課からのお知らせ

図書検索(OPAC)は、本年 1 月 5 日より新OPACに変わります

新OPACでは、総合資料館、京都府立大学附属図書館、京都府立医科大学附属図書館の蔵書を検索することができます。ただし、京都府立図書館の蔵書は検索できなくなります。

ご不明な点などありましたら、総合資料館文献課 (075-723-4833) までお問い合わせ下さい。

1月～3月 行事カレンダー

- ◆1月13日(火) **いざない講座** 第2回「すまい」 ※申込みは終了しました
〈講師〉川島智生氏(京都華頂大学教授) 〈場所〉Coffee House 拾得 13時～
- ◆1月29日(木) **いざない講座** 第3回「まつり」
〈講師〉師茂樹氏(花園大学准教授) 〈場所〉京都府立大学大学会館 14時～
- ◆2月1日(日) **Library of the Year 2014大賞受賞 報告会**
〈講師〉大串夏身氏(昭和女子大学特任教授) ほか 〈場所〉総合資料館2階会議室 14時～
- ◆2月15日(日) **いざない講座** 第4回「くらしかた」
〈講師〉五島邦治氏(京都造形芸術大学客員教授) 〈場所〉京都府立大学大学会館 14時～
- ◆2月18日(水)～20日(金) **歴史資料解読講座**
〈講師〉島津良子氏(奈良女子大学非常勤講師) ほか 〈場所〉京都府立大学第3講義室 14時～
- ◆2月22日(日) **シンポ** お地藏さまサミット
〈基調講演〉芳井敬郎氏(花園大学教授) ほか 〈場所〉キャンパスプラザ京都
- ◆3月11日(水) **バックヤードツアー** ※申込制です 〈場所〉総合資料館 10時～
- ◆3月14日(土) **寺子屋講座** 京都の歴史を歩こう! 2015 ※申込制です 〈場所〉上賀茂地域

日誌(平成26年9月～11月)

- 9. 13(土)～10. 12(日) 企画展「高瀬川開削400年記念～高瀬川と京都の水運～」
- 9. 27(土) 東寺百合文書連続講座 第1回
- 10. 2(木) 友の会結成50周年記念行事
- 10. 2(木) 企画展関連講演会「高瀬川から生まれた徳川京都」
- 10. 20(月)～31(金) 資料整理期
- 10. 26(日) 東寺百合文書連続講座 第2回
- 11. 3(月・祝) 国際京都学シンポ「都市と農村のロハスな関係」
- 11. 7(金) Library of the Year 2014大賞受賞
- 11. 15(土) 16(日) 特別陳列「東寺百合文書」
- 11. 20(木) 友の会見学会
- 11. 30(日) 東寺百合文書連続講座 第3回

古文書相談のご案内

- 古文書の内容や解読についての相談を郵送にて受け付けております。
 - 地域に残る資料の解読・整理取り扱いなどに関するご要望があれば、職員が出張して行きます。
- いずれも詳細は、当館歴史資料課(TEL 075-723-4834)までお問い合わせください。

友の会事務局から

10月2日(木)、42名の会員様にご参加いただき、友の会結成50周年記念行事(対談等)を開催しました。10月14日(火)に予定しておりました東寺での現地講座は、大型の台風の影響を考慮し、残念ながら中止しました。11月20日(木)の佐川美術館とパラミタミュージアムの見学会には、52名の会員様にご参加いただき、紅葉の美しい季節に、天候にも恵まれ、芸術の秋を満喫していただきました。

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)
〔1月～3月の休館日〕
12月28日(日)～1月4日(日)年末年始休館
1月12日(月・祝)、14日(水)
2月11日(水・祝)、3月11日(水)、21日(土・祝)
開館時間 午前9時～午後4時30分
交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、〔北8〕・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車
ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。